

前畑秀子NHK朝ドラ実現市民大会で最高潮の盛り上がり！

朝ドラ誘致だより(最終回)

1月21日、「前畑秀子NHK朝ドラ実現市民大会」が市民会館で開催され、約600人の市民や関係者が参加しました。橋本市名誉市民で、日本女性初のオリンピック金メダリストである前畑秀子さんを主人公にしたNHK朝の連続テレビ小説(朝ドラ)の実現を目指して、市民と関係者が一体となり、最後の頑張りを行いました。
【朝ドラ誘致室】



第一部は、境原小学校児童による太鼓演奏で始まり、朝ドラ誘致実行委員長などのあいさつの後、これまでの朝ドラ誘致活動を動画で紹介しました。また、水泳競技で全大会出場経験のある三石小学校の吉本早希さんが水泳や前畑さんへの思いをつづった作文を朗読しました。



第二部では、古佐田丘中学校の生徒による紙芝居や、橋本高等学校の生徒による朗読劇、ダンスで盛り上がり、最後に全員で朝ドラ実現を目指して「前畑ガンバレ!」を三唱しました。また、子どもたちが描いたぬり絵や絵画などの展示や、前畑さんがベルリンオリンピックで使用した水着や金メダルの展示などもあり、来場者の感動を呼びました。



前畑秀子ストーリー

第三十三話(最終回) 人生の金メダル



これまで、橋本時代、樺山時代、指導者時代、晩年という大きな括りではあります。前畑さんの軌跡を辿ってきました。その中で前畑さんが一貫して実践し、言い続けてきたことがあります。それは、やりはじめたら最後までやり抜くこと、自分自身に打ち克つこと、努力を惜しまないことです。前畑さんが選手生活やその後の人生において、常に闘い、挑戦し続けてきたのは、他の誰でもない自分自身でした。自己の限界に挑戦し、打ち克とうとする「努力」の積み重ねが、前畑さんの人生を拓いていったのです。

最後に、オリンピックの創始者クーベルタン男爵の言葉を紹介したいと思います。「自己を知ること、自己を律すること、自己に打ち克つこと、これこそがアスリートの義務であり、もっとも大切なことである」、「努力は至上の喜びである。成功は目的ではなく、より高きものを目指すための一つの方法である」。前畑さんがこれらの言葉を知っていたかは分かりません。しかし、本連載でみてきた前畑さんの姿は、これらの言葉を身をもって示していたのではないのでしょうか。前畑秀子という人は、単なる金メダリストではありません。誰との比較でもない、自らの人生における金メダルを目指し、その大切さを、自らの生き方を通じて伝え続けた「オリンピック」なのです。

連載終了のご挨拶

オリンピック選手は、競技成績のみで評価されてしまうことが多く、時間が経てば人々の記憶からも消えてしまいます。日本のスポーツ文化は未だ醸成されておらず、いえません。だからこそ地元が舵を取りながら、記録だけでは計れない選手の記憶や功績を未来に伝えていく必要があるのです。



連載がスタートしてから2年9カ月、このあいだに朝ドラ誘致活動も実行委員会をはじめとする市民の皆さんによって、活発に展開されました。前畑秀子という人物によって、橋本市が繋がり、都市が繋がり、そして今、その輪が広がろうとしています。前畑秀子という人は時空を越えて人々を繋ぐ偉大な人です。ご縁あって2015年の8月から「前畑秀子ストーリー」を連載してまいりました。長期間に渡りお付き合いいただきまして、誠にありがとうございました。(木村華織)

